

相手を思いやることのできる社会

浦安市立日の出中学校2年 粟井 真結

私の父は香港で仕事をしています。今年の春に父に会いに香港へ行ってきました。父は多少は現地の広東語や英語が理解できますが、母や私たち子供は聞いたり話すことができません。そんな中で父がいない時に買い物をする機会があり、その時に上手く言葉が伝わらず、店員さんに舌打ちをされたり、注文したメニューから勝手に変えられたりしました。比較的高級なお店に行くとその様なことは無かったのですが、町にある商店やカフェなどでそういった思いをすることが多かったです。

日本に戻ってきてからコロナ禍が終わり、日本を旅行する外国人が増えました。そういった外国人への店員の対応を見ていると、分からないながら相手の言いたいことをがんばって聞き取ろうとしたり、様々な言語で説明書きが書かれていたり、たくさんの配慮がなされています。もちろん香港や日本どちらも全部が全部そういったお店ではないと思います。ですが、昔から言われている日本の「おもてなし精神」を旅行を通してとても感じました。

そこで、私は目の前の人を思いやるということはどういうことなのか考えてみました。まず一つ目は、昔から母に言われていることなのですが、「自分がされて嫌なことは人にしない、されて嬉しいことは人にする」ということです。一見とても簡単そうに聞こえますが、わざとじゃなくても相手を傷つけてしまったり、Aさんを傷つけないようにした行動がBさんを傷つけてしまったりと単純に済ませることが出来ないことも多いです。その様なことで悩むこともあります。できるだけ目の前にいる人に対して相手がどうしてほしいのか、どうしてほしくないのか、しっかり考えて行動して行きたいと思います。

二つ目は、相手が自分の考え方や容姿が異なっても「お互いを認

め合うこと」が大切だと思います。少し自分と考えが違うだけで、相手の意見を非難するのではなく、相手の意見をよく聞いて、その考えを認めて、お互いの意見を尊重し合っていきたいです。

三つ目は感謝の気持ちを忘れず、またその気持ちを言葉で表すことです。相手に何かしてもらった時に積極的に「ありがとう」と言うことや、相手を傷つけてしまったら「ごめんなさい」と言うことが大切だと思います。中々素直に言えない時もありますが、できるだけ相手に伝わるように言葉にして伝えていきたいです。

このように、相手の立場を考え、お互いの意見を尊重し合うことを一人一人することができたら、いいと思います。それができたら世界で問題になっている戦争や人種差別を無くすことができるし、日本でも児童虐待や若者の迷惑行為、コロナ禍での感染者に対する差別を無くすことができると思います。もちろん簡単なことではないと理解していますが、一人一人が意識することで、より良い社会になり、社会を明るくすることができると思います。私ができることは目の前の人に思いやりを持つことですが、その行動が社会につながっていて、その先に明るい社会の未来があることを信じて行動していきたいと思います。